

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第3回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和6年3月27日(水) 午後6時00分から午後8時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所第301・302会議室
出席委員(者)氏名	田口賢太郎委員、木村ミツ委員、吉岡弘美委員、会田亮平委員 荒井一美委員、熊木崇人委員、須田重昭委員
欠席委員(者)氏名	伴野忠委員
担当課職員職氏名	こども福祉部副部長兼地域福祉課長 岡田啓司 こども福祉部子育て支援課長 桜井健一 こども福祉部子育て支援課課長補佐 飯野耕太郎 こども福祉部障がい福祉課長 程田浩司 こども福祉部保育幼稚園課長 島村善和 健康長寿部健康増進課母子保健係長 稲見絹子 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主任 中村雄貴 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主事 佐久間有沙 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主事 安藤大空 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主事 菊名友有
会議次第と会議の公開 又は非公開の別	1 開会 2 議事 (1) 新規認定こども園(従来型幼稚園からの移行)について (2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について 3 その他 4 閉会 ※ すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍聴者の数	なし
会議資料の名称	資料1 新規認定こども園(従来型幼稚園からの移行)の利用定員について
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	会田委員、荒井委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局	<p>資料の確認</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 新規認定こども園（従来型幼稚園からの移行）について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料1</p> <p>(事務局から説明)</p> <p>(質疑応答)</p>
吉岡委員	<p>設計図があるということは新たに建てられたということか。</p>
事務局	<p>一部設備を認定こども園に必要な形に修正したが、既存の幼稚園をそのまま活用し認定こども園化するため、建物自体の建て替えではない。</p>
田口委員	<p>部屋は増設せず、今後は1号認定と2号認定の子どもを同じクラスで保育するということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
熊木委員	<p>吉川市としては認定こども園化を進めていくのに前向きなのか。</p>
事務局	<p>国からは、私学幼稚園について認定こども園化を進めるという通知がきている。この制度が始まった際に各幼稚園の意向を確認し、市内5園のうち吉川幼稚園以外は直近での移行は考えていないとのことだったが、今後ニーズや県の考え方なども踏まえながら進めていきたい。</p>
熊木委員	<p>保育園から幼保連携型の認定こども園化をするという話があった場合、市としては前向きに検討するのか。</p>

事務局	1号認定の幼稚園利用者の需要を見ると、既存の私学幼稚園や認定こども園でキャパシティは十分間に合っているため、保育園の認定こども園化は今のところ考えていない。
熊木委員	補助金にかかわる部分で、単価が上がると思われるので、もし保育園から話があった場合には前向きに検討してもらいたい。
木村委員	認定こども園化するにあたり、どのような利点があるのか。
事務局	経営面では、私学幼稚園は私学助成を受け、さらに利用者の入園料や月謝で成り立っているが、一方で認定こども園化すると運営費として国や県、市から負担金が支払われる。一般的には、認定こども園化したほうが経営面は少し改善すると思われる。またこのように保育園や幼稚園を持っている法人は、様々な場所に施設を整備していることが多く、認定こども園の中に一つだけ幼稚園があると職員の異動などが難しいという話もある。そのため、吉川幼稚園を運営するワタナベ学園は、吉川幼稚園以外は認定こども園への移行がほぼ終わっているため、今回の認定こども園化は利点があると考えられる。
吉岡委員	利用定員について、資料1に3号認定が0名とあるが、現時点の利用者が0名で今後は定員に含まれていくのか。また、今回認定こども園化するにあたり、保育士等の人数を増やすことはしているのか。また、施設概要に子育て支援事業として3つあるが、園の利用者以外の方たちに対して行われているのか。
事務局	3号認定は3歳児未満が対象となるが、今回幼稚園型認定こども園に移行し、低年齢児の受け入れはないため、3号認定の受け入れは0人となっている。保育士については、認定こども園を運営するうえで配置基準があり、県の認可でも確認し、間違いなく確保できるとして進めている。子育て支援事業については、荒井委員より説明を求める。

荒井委員	子育て支援事業については、園内で行っており、園の保護者や地域の保護者など誰でも参加できる形にしている。
田口委員	幼稚園型に移行ということは3号認定について基本的に考えておらず、また1号認定の需要は間に合っているとのことだったが、2号認定つまり保育需要については、今後吉川幼稚園が2号認定を拡大する余地があるのか。
事務局	保育需要に関しては、吉川市の待機児童は令和5年4月時点で9名となっており、内訳としては国基準の数字で、1歳2名、2歳5名、3歳2名である。吉川幼稚園はもともと認定こども園化する際、幼稚園型か幼保連携型かという調整があったが、母体であるワタナベ学園は「吉川さくらの森」という別の認定こども園を市内に構えており、吉川幼稚園での低年齢児の受け入れは難しいが、吉川さくらの森で1歳、2歳の定員を調整し、学園全体で見ると不足部分をカバーしながら今回幼稚園型の認定こども園化をしていくということで、市も了承したところである。今後の需要については、現在0歳児は100人規模で出生率自体が減少傾向にあり、保護者の就労率にもよるが、保育需要は高止まり若干減少傾向にもあるという見立てである。今後、令和9年前後に吉川美南駅東口開発地区の人口が増え、その場合1園ほどの不足が生じると見込まれるため、需要と供給のバランスを見ながら新設を検討していきたい。
田口委員	つまり現時点での見通しとしては十分であるということか。
事務局	そのとおりである。
<p>(2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について</p>	

	<p>【関係資料】</p> <p>なし</p> <p>(事務局から説明)</p> <p>(質疑応答)</p>
熊木委員	<p>ニーズ調査について、サービス必要量だけでなく保育・教育の質を高めていくこととし、吉川市として特化した強みを生かせるような計画を策定していきたいという話があったが、国からのニーズ調査の文言に加え、吉川市としての質問事項を設けたのか。また、就学前児童保護者1,500人、小学生児童保護者1,500人の計3,000人を対象に配布し、それに対して何%の回答があったのか。</p>
事務局	<p>吉川市としては、まだ国でも検討段階だが、こども誰でも通園制度と仮称で言われている制度を見越し、そのような制度が実施された場合利用を考えるかという質問を調査に織り込み実施した。回答率は57%程度で、前回より5ポイント上昇している。</p>
木村委員	<p>「安心して子育てできる環境の充実」について、住民は吉川美南駅周辺に何ができるのか期待を持っている。ぜひこのような拠点施設を作る際は、子どもも会議に参加できるような方法があればよいと思う。</p>
事務局	<p>こども家庭庁からも子どもの意見を聞くよう挙げられているので、子どもの意見を聞くことのできる形を次年度検討していく。</p>
田口委員	<p>あらまし7頁の「安心して子育てできる環境の充実」の「第2期子ども・子育て支援事業計画については、子育てに係るニーズ調査の結果をもとに第3期計画を策定していく」とはどういう意味か。</p>
事務局	<p>今ある第2期子ども・子育て支援事業計画についてはニーズ調査を行</p>

<p>会田委員</p>	<p>い、その結果をもとに第3期計画を策定していくという意味である。</p> <p>「安心して子育てできる環境の充実」の「保護者が安心して保育を受けられる」点と「一時預かり事業の拡充」という点で、育児負担の軽減につながると思うが、病児保育は持ち物が多いなど事前準備が多く使いにくいとの意見を伺うことがある。一時預かり以外の別の保育ニーズとして、病児保育の拡充や利用のしやすさについても意見として調査されているのか。今後こども一体拠点施設の検討に含まれるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>病児保育については、2年ほど前に見直したことで持ち物が大きく減り、また用意できないものは病院で購入やレンタルが可能である。またこれまで電話予約で日中のみの受付だったが、現在はオンラインで24時間予約をとれる体制のため、使いにくさを感じている方にはぜひ案内いただきたい。現在市内で1か所の病院内に合計4部屋構えて実施しており、コロナ禍での利用はかなり少なく、院内で感染させないため状況不明の発熱等は断らざるを得ない状況だったが、コロナが5類に移行したことで利用が増えてきている印象がある。そこには利用や予約のしやすさも反映されていると考えている。全体を通してみると不足している状況ではないと考えているが、ニーズ調査では子どもが病気の際はどのようにしているかとの質問事項もあり、結果を見ながら引き続き病児保育の拡大が必要かどうか検討していきたい。</p>
<p>荒井委員</p>	<p>子どもとの時間ではなくかかわりの濃さだと思うが、子どもにとって体調不良時に親が仕事に行かなければならない状況は、子どもの心の成長にも関わってくる部分だと思うので、その点も加味して病児保育の受け入れを考えてもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>病児保育の利用状況を見ると、一度予約をしたが親が休みをとれたためキャンセルということも多い。利用制限をするのも難しく、どうしても休めないという家庭が利用しているとは思いますが、意見いただいた</p>

	点にも注目していく。
吉岡委員	新たなこども一体拠点施設のイメージについて、「親子で気軽にアートと触れ合うことができるスペース」とあるが、吉川市の芸術の捉え方は偏っていると感じており、芸術はもっと幅広いものであると思うので、狭めた意味でなく音楽などの違う視点でも検討いただきたい。
事務局	現時点ではあくまでもイメージのため、今後そのような意見も踏まえながら検討していきたい。
田村委員	アートというコンセプトはどのような経緯で挙げたのか。
事務局	吉川市として文化芸術振興条例を制定し、現在推し進めているため、拠点施設を作るうえでその点も加味しながら検討していきたい。
会田委員	吉川市を「好きな自分のまち」と思えるようにするために文化というのはとても大事だと考えるが、拠点施設の検討の軸の中に文化という部分は含まれるのか。
事務局	その点も踏まえながら検討していきたい。
田口委員	施設について、今後どのような流れで具体化していく見通しなのか。
事務局	すでに庁内で各部署の担当者を集め、検討会議を3回開催した。その中で様々な意見をいただきながらイメージを膨らませ、また次年度にも検討会議を進めていきたい。この児童福祉審議会においても様々な意見をいただきたい。
田口委員	「屋内で」と書かれているが、なぜ屋内なのか。

事務局	雨でも遊べるスペースがあったらよいという意見が挙がったことから、今回の拠点施設の話が始まった経緯があるため、そのようなイメージで検討を進めている。
田口委員	こども一体拠点施設の「一体」とはどのような意味か。
事務局	検討イメージの中では、屋内で遊べるスペースや、アートと触れ合うスペースのほか、一時預かりやこども誰でも通園制度などの公的な支援サービスを受けられる一体型拠点というイメージである。
田口委員	施工事例として参考にしている地域あるのか。
事務局	担当で様々な施設の視察を重ねながらイメージを膨らませているところである。
須田委員	「地域で子育て」とあるが、具体的にはどのように考えているのか。
事務局	吉川市でまさに地域力行で行っている事業として、ファミリー・サポート・センター事業がある。地域での子育てに協力する協力会員と利用する利用会員がおり、例えば利用会員が仕事の関係で送迎が間に合わないといった場合の保育所や学童、学習塾の送迎など、一時的に子どもを地域の協力会員に見てもらう制度であり、地域で子育てを支える体制づくりに掲げる事業の一つとなっている。
須田委員	では特に吉川美南駅東口では、地域で子育てを支えるためのこれまでと異なる体制を作ろうということではないのか。
事務局	拠点施設の中で、吉川市総合振興計画にも掲げている「地域で子育てを支える体制づくり」をどのように具現化していくのか、今後十分に検討していきたい。例えば地域の協力会員が直接支援に入るケースも

	<p>あれば、吉川市の様々な地域で支援を行う個人や団体、民生委員、主任児童委員などが連携をする中で、子どもを必要な支援につなげていくという体制づくりを拠点施設の役割の一つとして考えていきたい。</p>
須田委員	<p>例えば高齢者施設と保育園が隣接し、高齢者や小さな子どもができる範囲で互いに助け合っていこうという試みをしている地域があると思うが、そのような何か目新しいことは考えているのか。施設を作るだけでなく、どのような体制を組み合わせるか検討して行ってほしい。</p>
熊木委員	<p>関わりのある園について、まだ開園から浅くより地域に馴染んでいきたいと考え、地域で年1回開催される盆踊り大会を通して、盆踊り会の会長に盆踊りを保護者と一緒に教えてもらう企画をし、顔見知りになれたことがとてもよかった。子ども・親・高齢者世代が皆で一つのことをできるような取り組みをきっかけとして、セーフティネットとなる部分に加え、楽しんで関係作りできるイベントがあれば縦のつながりも作れるのではないかな。</p>
事務局	<p>やはり高齢者と子どもが触れ合うことは非常に大事と考えており、拠点施設に限らず、今後各関係機関と連携して取り組んでいきたい。</p>
会田委員	<p>児童福祉分野だけでなく高齢福祉分野等も含めて、日ごろから地域住民とのつながりができるような開かれた施設になればよいと思う。また吉川美南駅東口の近くには田んぼや農家があると思うので、お米やねぎなど市が力を入れている地域に根付いた文化や農業・産業との交流を通して、高齢世代と子育て世代がつながる一つのきっかけになるのではないかな。既存の市の資源をフルに生かしてもらい、つながりを持つような拠点となれば、虐待の問題など地域での見守りにもつながり、安心して子育てできるまちになると考える。</p>
須田委員	<p>接触がなくても、互いに見える関係が大切と考える。子どもが遊んで</p>

	<p>いる様子、高齢者が苦勞して歩いている様子など、一緒に何かをしなくても混在としたまちと見えることが、地域で子育てしていくことにつながっていくように感じる。</p>
荒井委員	<p>吉川市の良さを生かした、他市にはないまちづくりができればよい。日ごろの見守りやちょっとしたつながりのある人に子どもを見てもらえることで、安心できるように思う。現代は隣近所とのつながりが薄くなっているように感じるが、日常でのあいさつや世間話で地域の人たちの心をつなげていければ、住みたいまちと感ずるのではないか。</p>
吉岡委員	<p>中学校での部活動が、教員の働き方改革により今後どうなっていくか危惧しており、クラブチームがないような存続できない部活でも、地域に教えられる人がいるなどのつながりができればよいと考えており、拠点施設にもそのようなことのできる施設があればよい。</p>
田口委員	<p>吉川市に小学生以上の待機児童はいるのか。</p>
事務局	<p>学童保育施設については各小学校に備えてあり、待機児童はいない状況である。</p>
会田委員	<p>施設検討のうえで様々な施設に視察に行ったとのことだったが、どのような施設を軸にして現在検討を進めているのか。</p>
事務局	<p>それぞれの施設にその地域でのよさがあり、その点を吸収させてもらっている状況である。それぞれの施設のメリットは感じるが、デメリットは見えにくく、吉川市に照らし合わせたときの良い点や運営の仕方の検討を重ねてきた中で、今回の拠点施設という考え方に至った。</p>
会田委員	<p>印象に残っている施設等はあるのか。拠点施設のイメージがまったくつかない。</p>

事務局	例えば、天井が高く、大きな遊具がある、空間をうまく活用して天井から何かぶら下げる、また雨でも遊べるという点から室内でも汗をかいて幅広く子どもたちや親子の触れ合いができるのではないかと考えられるものがある。
会田委員	アクティビティな施設となるのか。
事務局	子どもにとって様々な体験をできることが良いのではないかという視点もあった中で、体を動かすだけでなく、何か創作をするなど考える力を育むことや、自己肯定感につながることなど、様々な捉え方や側面が見えてきたため、次年度の中でさらに深い検討を重ねていきたい。その中でこの児童福祉審議会でも報告しながら、ご意見をいただきたい。
木村委員	民生委員として高齢者とかかわることが多いが、高齢者は保育園などに呼んでもらうと喜ぶ。先日小学校で一緒にボッチャをし、とても盛り上がった。そのように高齢者との交流があってもよいと考える。
須田委員	先日シンガポールに行ってきたが、高齢者が運動できるスペースの隣には必ず子どもの遊び場があった。大きな団地の中に診療所、保育園、スーパーマーケットとそのような運動施設がなければならぬことになっている。高齢者が運動しながら子どもたちが遊んでいる様子を見ており、地域での子育て・見守りだと感じた。
田口委員	拠点施設について、具体的な形が見えてくるのは何年の見通しか。
事務局	現時点で何年度に完成するといった打ち出しは難しい。そのため機能等のコンセプトを次年度に固め、そのうえで施設設計を進めていくが、設計も1年、場合によっては2年かかる可能性がある。さらにその設計を実現させるための建設工事も2年ほどかかる可能性もある。その

	<p>ため完成は4～5年先との想定もされる。今後、どのようなものにするかある程度具体化された中で、目標年度が定められると考えている。</p>
田口委員	<p>やはりコンセプトが大事になってくると考える。行政のできることとしては施設やシステムを作ることになると思うが、余白を織り込んでおくことで、人とのつながりを強制的に作るのは困難でも、環境があれば住民が自発的につながりあえる地域ができてくると考えられる。外部の施設や地域を視察した中で、吉川市の強みは何と考えるか。吉川市の持っているポテンシャルのすべてを再度掘り返していくことで、より豊かな地域になるのではないか。また、防災拠点について記載があるが、防災について何か想定されていることはあるか。</p>
事務局	<p>吉川美南駅東口周辺地区のまちづくりのコンセプトとして、防災拠点と書いているが、拠点施設ではなく区画整備地区全体のコンセプトとしている。</p>
田口委員	<p>東口周辺の防災リスクというのは検討されているのか。</p>
事務局	<p>昨今の地震等を鑑み、また吉川市では水害も十分に考えられる中で、対策については区画整備地区だけでなく市全体で考えていく必要があり、その中でこの地区に特化した部分についてs 考えていく。</p>
会田委員	<p>吉川美南駅東口に学校施設の整備の予定はあるのか。保育施設が増えるとなると、その先の学校施設も必然的に必要となるのではないか。</p>
事務局	<p>学校教育課からは特にそのような話は出ていない。</p>
	<p>6. その他</p> <p>第2期吉川市子どもの貧困対策推進計画について、令和6年度から令和10年度の5か年を計画期間とし、策定したことを報告。今後の進</p>

捗については、この児童福祉審議会で報告を行う予定である。児童福祉審議会の今後の予定について、令和5年度は今回をもって終了となり、令和6年度については第3期子ども・子育て支援事業計画の策定年度となっているため、年4回程度の開催を予定している。

7. 閉会

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和6年4月30日

署名委員 会田 亮平 (自署) 署名委員 荒井 一美 (自署)